

平成25年度 学生による授業評価およびカリキュラム・施設・設備アンケート実施結果報告書 (材料科学総合学科)

1. 授業評価について

① 授業に対する代表的な記述内容

全体としては批判的な意見の方が好意的な意見よりもやや多い。好意的な意見としては、興味を持たされた・引き込まれた、板書が整理されている、板書・説明が丁寧で分かりやすい、配布資料がまとまっている、身近な例（応用）・他教科との関連が理解できた、例題・宿題・レポートがあって理解に役立った、などである。批判的な意見としては、これとは逆に、本質的・重要なポイントが分かりにくい・整理されていない、授業の進行が速い、専門用語の説明がない、スライドの送りや板書を消すタイミングが早い、声・文字が小さい、配布資料が分かりにくい、何に役立つのか分からなかった、などが代表的である。レポート・宿題に関しては多くの科目で出してほしいとの要望があり、その解答や解説を行ってほしいとの意見も多かった。ただし、過度に負荷の大きな課題に関しては多くの批判的な意見があった。同じ科目を複数クラスで行う場合に、各クラスでの休講数の差に関する指摘があった。

パワーポイントの内容を配付して欲しいとの意見は昨年と比較して減少した。

TAの指導には好意的な意見がほとんどであり、人数を増やしてほしいとの意見もあった。

② 分析結果

評価値が低い科目に関しては授業評価アンケート裏面に改善要求が多く記述されており、学生側も真剣にアンケートに対応していることが伺える。昨年度に多くの批判的な意見が寄せられた一部の教科で評価が向上しており、授業評アンケートは一定の機能を果たしていると思われる。

学生は講義に対して基本的に理解のしやすさを求めている。自習の不足はあろうと思うが、批判的な意見として要点が分かりにくいという指摘が多かったのはその現れと考えられる。授業のスピードが速いという指摘もあるが、材料系の学生として必ず身につけるべき内容を削ることは難しい。しかしながら、適切な教科書や参考書の選定、系統的にまとめられた板書（パワーポイント）、授業内容をまとめた資料配付、授業内容が工学的にどのようなところで役に立つか、他教科との関連性、などにより学生に興味を持たせ、面白いと感じさせることが必要であろう。実際に、レポート・宿題、授業中の演習・小テストなど実際に学生自身の対応が必要となる双方向的な授業の評価は高い。レポートの返却・解答などのきめ細かな対応も要求されている。

TAが授業中に学生を指導する教科におけるTAの評価は比較的高いようであり、経費の問題はあろうが拡充を検討すべきであろう。TAの拡充はレポート・宿題に関する教員側の自由度の増加にもつながるものと思われる。

③ 改善策

重要（基本）項目の強調、授業内容をまとめた資料（パワーポイント資料含む）の配付、

マイクを含めた機器の適切な使用は重要である。レポート・宿題、授業中の小テスト・演習（および解答の丁寧な説明）は学生の理解を助けるので、TAの拡充にも関係するが積極的に行いたい。板書やスライドの文字は大きくわかりやすく書き、学生からの見え方、上付下付文字の大きさ、チョークの色にも配慮したい。初めての専門用語や記号、単位については必ず説明し、授業と身近な工業製品との関連を述べることも有効である。

いくつかの科目では授業アンケートの記述が少ないものがある。授業時間中にアンケートを記入する時間をとり、裏面のコメント欄にも記入するように伝えるようにしたい。

2. カリキュラム・施設・設備について

① 代表的な記述内容

全学教育科目には、適切・問題なしとの意見、専門以外の幅広い科目を学べて良いとの意見が目立った。専門教育科目には、満足している、幅広く学べる、充実している、勉強になった、との好意的な意見が主に寄せられている。加えて、全学教育科目では、同じ科目で内容が統一されていない・教員によって評価が著しく異なる（英語）、得られるものが少ない、専門につながらない、などの批判的な意見に加えて、他組履修や科目選択の自由がほしいという要望も多かった。専門教育科目に関しては、全学教育科目と比較して急に難度が上がる、との意見があった。ほとんど必修となっている電気工学実験の必要性、平成25年度から始まった英語の集中講義の必要性を問う意見もあった。早くから専門教育科目を始めてほしいとの要望も多かった。さらに、テスト日程が過密（特に6セメ）との意見、1日にのうちに青葉山と川内を往復するような授業時間割をやめて欲しいとの要望も見られた。

選択必修の指定では、電気工学実験がほぼ必修化されていることへの不満が大きい。

進級・卒業要件に関しては、研究室配属をもう少し早い時期にして欲しい、成績評価方法も含めた研究室配属方法を明示して欲しい、との意見があった。

セメスター間のバランスでは、5セメ6セメの負担が大きすぎる、選択必修②が6セメに偏っている、などシステムに関する要望が多い。これらは早くから専門教育科目を開始してほしいとの意見にも関係している。

講義室に関してはプレハブ講義室の温度調整・換気・振動に関する不満が多い。4年生からはマテリアル系大講義室の椅子に関する不満が多く寄せられたが、これは一昨年度、昨年度に対応しており、2年生からの指摘は少なかった。

実験室・実習室に関しては、狭い、寒い、暑いなどの他に、実験室の場所が分からないことがあった、との意見が多かった。グループワークのできる環境の整備、自習室の拡充、自習室のPC（ソフトを含む）の更新、プリンタの設置などの要望も目立った。

工学分館に関しては、問題ない、使いやすいとの意見が数多く寄せられた一方で、24時間利用と貸出時間の延長を求める意見、休日や夜でも快適に使用できる環境（室温）を望む意見が多かった。

生協の学食に関しては混雑の回避に対する要望は大変多く、生協以外の飲食店導入を希望する意見もあった。キャンパス循環バスに関しては拡充を求める意見が目立った。

教育を受けた感想や意見に関しては4年生が記述しており、レベルに満足している、学習環境のレベルが高いなど肯定的な意見が圧倒的に多かった。

② 分析結果

Semester間のバランスとの観点からも専門教育科目を早めのSemesterから始めてほしいとの要望は大きい、専門教育科目は全学教育科目の数学・物理・化学を基礎としているものが多いなど、専門教育科目のカリキュラムは一連の流れの中で教育目標を達成できるように設計されている。大きな変更は難しいものの、地道な改善の積み重ねが重要であろう。電気工学実験は現在ほぼ必修との位置づけであるが、機械系が必修科目から選択科目に移行させており材料系においても議論が必要になる可能性が高い。

講義室・実験室に関する不満の多くはプレハブに関連した部分であり、現時点ではやむを得ない点も多いと感じる。平成26年の9月には新棟が完成したが什器の準備が整わずに現在もプレハブ講義室を使用している。材料系大講義室の改修も平成26年12月に終了したところである。これらの効果がアンケートに現れるのは2年後と予想される。

生協の学食や工学分館に関しては「利便性」への要望が多い。

教育を受けた感想としては好意的な意見が大部分である。4年生からは専門的な知識が身についたばかりでなく、それを社会で活かす心構えにまで言及している意見もあり心強い。

③ 改善策

4年生の教育を受けた感想は肯定的なものがほとんどであり、教育・カリキュラムについても基本的な部分では大きな問題は少ないと思われる。プレハブや材料系大講義室への不満に関しては、新棟竣工と大講義室改修により大きく低減することが予想されるがここ数年のアンケート結果に注目したい。

川内-青葉山間の移動をなるべく少なくするようなカリキュラム改善など既に対応している部分もあるが、更なる改善が可能かどうか検討する必要がある。英語の集中講義に関しては平成25年に始まったところであり、もう少し様子を見たい。研究室配属や成績評価方法に関しては4月のガイダンス時にもう少し明示的に説明する必要があるだろう。

生協の学食の利便性の向上は5系で意見を出しながら工学部として対応すべき問題点である。工学分館の24時間利用は安全の観点も十分に考慮すべきである。キャンパス循環バスの拡充は現時点では出来るだけ実現する方向を検討すべきであろうが、経費の問題や平成27年の地下鉄開業の影響の把握も必要である。